

## e-ビーフNEWS 北の牧場から

August 2023

## 十勝のなつぞら

暑い。灼熱地獄ですね。35℃超えの連日猛暑日が続きます。ここは北海道ですよ。涼しさを求めてやってくる観光客さんに申し訳ございません。先日はここでは珍しく熱帯夜。汗だくの寝苦しさは、ええ、ここどこ?という感じですね。この暑さに牧場の牛たちもグツタリ。共済組合の獣医が牛たちの熱中症治療で飛び回っています。

好天続きは、小麦収穫に最適です。今年の収穫は例年の1割増11.5俵取れたそうです。畜産農家にとつては、麦稈の良し悪し。十分に乾いた良質の麦稈が210ロール牧場に入ってきました。牛の寝床に最適です。デントコーンも順調に伸び、人の背丈を超えて3m以上になり雄花の尾がたなびき始めました。余りにも大きく育ったので、これからは強風、特に台風の襲来が気になるところ。

この夏空、度を越してきました。「例年になく」という言葉がいつも聞くようになりました。温暖化の急激な進行が気になりますね。



## 活動のお知らせ

9/14(木)15(金)16(土) **オーガニックライフEXPO2023**  
10:00-17:00  
東京都立産業貿易センター 浜松町館 2F~5F  
9/17(日) **オーガニックヴィレッジ2023**  
とかちプラザ

9/21(木) **食肉の生産から食卓までを繋ぐ"日本産肉研究会第32回学術集会 シンポジウムテーマ「有機畜産の現状・普及・課題」**  
13:00~17:00  
帯広畜産大学およびオンライン(ZOOM)第VI会場(5番講義室)  
参加費:500円(現地参加者の非会員のみ:講演要旨代、日本畜産学会参加者は無料)、オンライン無料  
《プログラム》

- 13:05-13:45 「有機JAS認証を取得するためには」(仮) 武内 智 氏 JASCERT理事
- 13:45-14:15 「日本唯一の有機JAS認証コンプリート牧場、鈴木牧場! その未来は! ?」(仮) 鈴木 敏文 氏(鈴木牧場 広尾町)
- 14:15-14:45 「有機畜産物の流通、その課題と今後」(仮) 岩崎 方保 氏(マルハニチロ株式会社) 課長代理
- 15:00-15:30 「私たちの求める牛肉とは」(仮) 御法川 泰子 氏(一般社団法人よつ葉会) 代表理事
- 15:30-15:45 産肉研学生会員企画「私の考える持続可能な畜産とは~八雲牧場で3年間、生産から消費までを体験して~」(仮) 藤本玲奈会員(北里大学獣医学部 修士課程)
- 16:00-17:00 総合討論 産肉研HP (<https://nihon-sanniku3.webnode.jp/>)

## NEWSばか読み

- 学校給食の有機米使用が、全国自治体に拡がり7/1:食育のきっかけ
- EU 2011年からの日本食品の輸入規制を全廃7/1:政治とのかかわり
- 23年食品の値上げ2.9万品目に 価格転嫁が拡大7/1:消費とのバランス
- 培養肉の研究開発が世界的に活発  
7/3:この位置づけがどこまでなるか
- スーパー 有機食品の取扱いが拡大 PBや専門店出店7/4:ブーム
- 税収が過去最大の71兆円に7/4:今のうちに財政立て直しなさい
- ホクレン 加工向け乳価交渉が難航7/5:頑張ってる
- 日本生協連 22年度エシカル食品が11%増7/5:定着化が図れるか
- キューピー減産 鳥インフル影響がマヨネーズ直撃7/6:立ち直り期待
- JA土幌 テンサイの飼料用栽培実証始める 輪作体系維持に  
7/7:トライアル
- 農水省 爆弾原料になりうる硝酸カリ使用を農家に限定通知  
7/8:そこまで
- 農水省 農地取得に国籍報告義務化7/8:国土維持
- 農水省 酪農家戸数 5.3%減 飼料高で大幅減7/8:深刻さ増す
- 有機酒類 輸出可 カナダがJAS有機認証合意7/11:拡がり期待
- 秋肥対策に 4000円/反支援7/12:効果は
- 香港 日本の水産物禁輸に 処理水放出で7/12:中国化浸透と風評被害
- 農水省 有機の町オーガニックヴィレッジ指定に84自治体拡がる  
7/14:方針浸透
- 農研機構 子実コーン輪作実証 地力回復し増収減肥  
7/15:検証と期待感

- 牛マルキン 肉専用種で39都道府県で発効7/17:拡がる
- 北海道サツマイモ 輸出 焼き芋ブームの東南アジアへ  
7/18:温暖化と栽培技術
- 宮崎県 牛個体識別を顔認証で 瞬時に情報等把握7/19:化粧させないと
- 鳥インフル ブラジル2例目 主産地で発生7/19:食肉需給バランス影響
- 配合飼料補てん4-6月7050円 特別措置発令7/20:どこまで有効
- 米国小麦相場 急騰 ロシア合意停止で7/21:政治に振り回される
- 23年上期貿易統計 赤字4期連続 食料、自動車輸出は好調  
7/21:国の力源
- 中酪 乳量4.5%減 東海近畿減少幅大きく7/22:着実減少
- 輸出米 値頃感から多収米が拡がる7/24:リーズナブルに
- 冷食業界 原料の国産化を拡大し前面に表示7/25:国産国消
- 総務省 人口減 昨対80万人過去最大7/26:国なる姿
- 農水省 農福連携 全国で6000件に拡大7/27:農業の価値観
- 農水省 AWF指針を決定 普及補助対象に7/27:内容検証
- 農水省 輸入肥料原料の安定供給備蓄整備に7/29:堆肥も入れて
- JA全農 飼料子会社4社を合併 全国最大手に7/29:期待する
- 全国チーズ生産が増加4.6万t 輸入品との価格差縮小、商品開発に  
7/31:牛乳消費にむすびつくか?
- 肉牛農家4万戸割れ 飼養頭数は73000頭増加7/31:集約化進む

## 東京直近NEWS(7/29 Shi-REPORT)

## ホルス

市況停滞相場維持。頭数の不足状況に変化なしも枝相場は停滞。交雑牛2等級も停滞からホルスも3桁価格状況。販売については非常に鈍く全般引合弱い。特に上位部位とバラ系の引合弱く、価格も下げ基調。冷凍アイテムの間合せも非常に弱い。切落しが唯一動くも、一時の勢いはなし。夏本番を迎えバラ系含めた動きに期待も現状は相当冷え込んでいる。益明け以降の節約志向向高まりで先も不透明。

## 経産牛

経産牛相場はやや天井気味も高値維持で推移。枝相場は高騰しておりC1@700台維持。上場頭数は大きく減らず維持している模様も、この猛暑どう影響するか。今後の上場頭数と相場に注視。パーツ販売は赤身バラ系ともに一服感強まる。カタ系が特に弱い印象。一部北海道産地指定の引合は一定も全体鈍くなっている。挽き材の引合もGW明けピークに6月以降鈍化、国産豚の相場上昇が影響模様。

## 1. 畜産技術818号(2023.7)

## (1) 研究レポート: 無線伝送式pHセンサーシステムの開発と牛の前胃液pH連続測定の実例 (水口人史、山形東亜DDK、櫛引史郎、国研開法人農食産技研)

牛第一胃のpHが濃厚飼料多給で極度に低下するとルーメンアシドーシスが起きて牛の生産性は低下します。そこで牛に経口投与できる砲弾型pHセンサー(径30mm,長さ158mm,重量230g)、と受信機、中継機、専用アプリソフトを組み込んだPCから成る無線伝送式第一胃内pH連続測定センサーを開発し、ホルスタイン種雌牛(40-51ヵ月齢、体重681-766kg,部分混合飼料と配合飼料給与)と黒毛和種去勢肥育牛(15-17ヵ月齢、体重500-540kg)の第一胃内pHの日内変動を3ヶ月間検討しました。ホルスタイン種雌牛の第一胃内pHの日内変動が0.5pHに対し、黒毛和種肥育牛では1.0pH以上となりました。肉牛が給与される配合飼料では易発酵性炭水化物が多いことが原因の一つと思われ、配慮が必要です。

## (2) 新連載1: 畜産の持続性向上1. 子実トウモロコシと飼料用米利用で国産飼料のみの和牛肥育実現 (寺田文典、明治飼糧、宮路広武、国研開法人東北農研セ)

農水省は「みどりの食料システム戦略」で農畜産物の持続的生産を目指し耕畜連携や有機畜産の実践例を紹介しています。子実トウモロコシと飼料用米を組み合わせた飼料の国産化取り組み

事例に山形の「なごみ農産」があります。肥育牛800頭を100%国産飼料のソフトグレンサイレージ(SGS)、玄米ペレット、圧片粉米などと子実トウモロコシで飼養しています。子実トウモロコシは80haを地元の飼料用米生産メンバーに作付けを依頼。耕畜連携の要である堆肥の散布は果樹よりも水田主体のようです。子実トウモロコシは収量の限度上、肥育前期6ヶ月間の給与ですが「和みの奏」「天童牛」などのブランド化にも有効です。耕畜連携は地域の耕種農家の理解と信頼が大切です。

## (3) 用語解説: 生物多様性(古林五月、農水省みどりの食料システム戦略G)

農業生産における生物の多様性は昆虫による農作物の受粉との関連などで理解されていますが、気候変動により生物多様性は損失され、持続可能性に不可欠なものとして国連が生物多様性条約(CBD)を採択しました。わが国でも食料・農業が生物の多様性に立脚していることに鑑み、生物多様性保全の国家戦略として取り組んでいます。

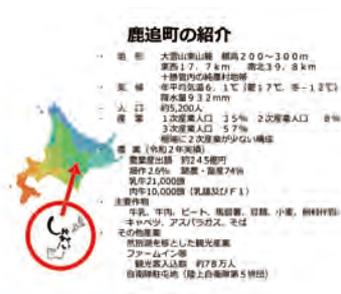
## (4) 海外統計DATA: 出典USDA: 2023年の世界の食肉需給見通し(木下良智、公財法人日本食肉生技開セ)

2023年の世界の牛肉生産は米国が減少、豪州、ブラジル、中国、インドが増加で世界全体では5,910万トンで前年並みです。2023年の牛肉輸出は米国が11%減ですがブラジル、豪州、インドなどの2%増加で中国向けの輸出は維持されるようです。

## 資源循環型肉牛生産シンポジウム 2022

話題提供「脱炭素社会における畜産を考える 4回シリーズ①

鹿追町 環境保全センター担当課長 城石 賢一氏



## 鹿追町環境保全センター(中鹿追施設)概要



- 敷地面積 約51,500㎡
- 建設費 約17億4,500万円(道交中山間地域総合整備事業)
- 稼働開始 平成19年10月1日
- 処理量 家畜ふん尿 135.3t/日、生ゴミ 2.0t/日、浄化槽汚泥等 1.57t/日

## 堆肥化プラント(中鹿追)



## コンポスト化プラント(中鹿追)



## 中鹿追施設諸元 1

堆肥化プラント		
項 目	内 容	備 考
原料の種類	乳牛ふん尿 35.6t/日(成牛換算数550頭)、敷料等 4.9t/日、市街地生ゴミ 1.1t/日	
処理能力	41.6t/日	
施設規模	幅27.6m×長さ10.8m×高さ1.3m	
施設概要	自動脱丹機2機(容量0.3m³/m³)	
発酵方式	バトル発酵式(1次発酵日数:2.5日)	

コンポスト化プラント		
項 目	内 容	備 考
原料の種類	農業集排水汚泥 1.24t/日、合併浄化槽汚泥0.33t/日、事業生ゴミ 0.90t/日	
処理能力	2.47t/日	
施設規模	直径機 9.3m	
処理方法	タイヤシヨベによる切り返し(埋地還元)	

## 中鹿追施設諸元 2

バイオガスプラント		
項 目	内 容	備 考
原料の種類	乳牛ふん尿 85.8t/日(成牛換算1,320頭)、敷料等 4.0t/日、車庫洗浄水 5.0t/日	
処理能力	94.8t/日	
施設概要	①原料槽 250m³×2機、②発酵槽1(固定型) 400m³×4機、③発酵槽2(浮上型) 800m³×2機、④貯液槽 100m³×2機、⑤貯液槽 6231m³×2機、11477m³×1機、⑥ガスホルダー 150m³×1機、⑦発電機(ガス専断) 100KW×1基、190KW×1基、⑧高圧ボイラー 1000kg/㎡×1基、⑨高圧ボイラー 1000kg/㎡×1基、⑩ガスフレア 100m³/㎡×1基	
発酵方式	嫌気性発酵(中温式)	

## バイオガスプラント(中鹿追)



## バイオガスプラント(中鹿追)



転載・再利用は固くお断りします